



雲青き

さいたま市立大成中学校 学校だより

1月号 令和7年1月7日

令和7年のスタートにあたって

校長 福田博志

新年を迎えました。保護者・地域の皆様には、昨年中、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願いたします。

さて、今年は巳（み・へび）年です。私が舘岩少年自然の家の所員だったころ、夏場には、石垣の間や道端などで毎日のように出会いました。アオダイショウを筆頭にシマヘビ、ヤマカガシ、マムシ、ジムグリを見つけるとは、よく観察したものでした。中には、2mのヤマカガシを見つけた時は、腰が抜けそうなほど、びっくりした思い出があります。



昔からへびは、神様の使いとして大切にされてきた動物です。へびは、脱皮を繰り返すことから「復活」や「再生」のシンボルとされ、不老長寿の縁起のいい動物として考えられてきました。また、「巳」を「実」という字と関連させて「実を結ぶ年」とも言われるそうです。これから始まる一年が、実り多い一年となることを願っています。

今年の元日は、私は、大成中学校の校庭で「初日の出」を拝みました。もしかしたら多くの同志に出会えるかもしれないと期待を胸に、まだ真っ暗な午前6時に校庭に到着し、絶好のポジションを確保しました。

冷気に包まれた元日の空気の中、私の身体が寒さですっかり凍えきってしまった午前7時過ぎに上空は、漆黒から紫色に染まり、校舎や樹木の境目がゆっくりと橙色に輝き始めました。紫と橙のグラデーションカラーがものすごくきれいでした。それからほどなくして、まばゆいばかりの光輝く「初日の出」が顔を見せたのです。今年も健康と天候に恵まれ、神々しい「初日の出」を拝むことができ、たいへんうれしく思いました。しかし、大成中の校庭には、私以外の人影はありませんでした・・・。

本校は、令和7年で開校79年を迎える伝統校です。さらには室町時代の武士、金子大成の館であった大成館の跡地でもあります。このあたりの高台を大成山と呼び、これが、地名「大成」の由来となったと言われております。校舎のいたるところに伝統は感じられますが、成中生の皆さんが心を込めて磨いているので、とても気持ちの良い学校となっています。

今年も大成中学校に関わる全ての皆様が幸せにすごせますように！